25 journal
society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU　okamura.nobuyoshi@gmail.com

温暖化防止　CO2回収が鍵

ソロプチミスト昭島が環境講演会　枝廣淳子さん　幸せな未来のための取り組み語る

大切な地球環境を未来に残していくために、今為すべきことを考える環境講演会「美しい地球を子どもたちへ　環境問題の今～未来を守るために私たちができること～」が5月20日、フォレスト・イン昭和館で開催された。環境ジャーナリストで、熱海市でブルーカーボンに取り組む未来創造部代表の枝廣淳子さんが幸せな未来のための取り組みを語った。

講演会には300人余りが集まった

環境課題へ関心を注ぎ、環境イベントへの参加やサクラの植樹活動などを続ける国際ソロプチミスト昭島が主催。地球温暖化問題などに関心を寄せる女性をはじめ行政関係者ら300人ほどが参加し、熱心に耳を傾けた。

枝廣さんは、過去10万年余りの中で、一番気温が高い中に私たちは住んでいるが、それは地球が支えられる能力を、人口増加や科学技術の発達などで人間の影響力が超えてしまったことが要因と指摘。地球温暖化対策は待ったなしとし、パリ条約を守らなければ2100年に向け気温の上昇は止まらないとした。

止めるためにはCO2を減らしてゼロにするのは当然で、大気中のCO2を回収することが求められる。そのためにCO2を吸収する樹木を育成するグリーンカーボンや近海で海藻を育てるブルーカーボンの取り組みが重要になるとした。併せて回収したCO2が大気に戻らないように固定化することが大切で、炭を作ることも有効になり、研究が進んでいることなどを紹介した。

枝廣さん自身も熱海でブルーカーボンの取り組みを実践

枝廣さんが代表を務める未来創造部は熱海市の海で海藻を育成し、増やすことでCO2の回収につなげる取り組みを行っている。企業や漁業者の協力も得て、市民を巻き込む活動に広げていきたいとした。

枝廣さんは、最初に目標とする未来像を描き、次にその未来像を実現するための道筋を考えていくというバックキャスティング、困難をしなやかに乗り越え回復する力をいうレジリエンス、すぐには答えが出ないが、耐えながら考え続けていくポジティブケイパビリティなどの問題解決に向けたキーワードを紹介。幸せな未来のために、ビジョンを描く、ネットワークを広げる、真実を語る、学ぶこと、慈しむこと、繰り返し伝えることの大切さを訴えた。

開会のあいさつをした和気恵子会長、閉会のあいさつに立った伊藤靖子さんは、いずれも環境課題を共に考え、地球環境を守るための活動の大切さを訴えた。

ベリーコテージ　6月15日カフェオープン

6月いっぱい土日限定で営業　7月17日から摘み取り開園

青梅市新町

青梅市新町のベリーコテージ（関塚直子代表）が6月15日に今シーズンの営業を始める。6月いっぱいは土日限定でカフェ営業と果実販売を行い、7月17日から摘み取りを開園する。

ベリー栽培のトップランナーとしてがんばる関塚さん（左）

ベリーコテージはベリーのスモールフルーツランド。敷地内の約1㌃の畑で種類豊富なブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリー、キウイフルーツなどを育て、良質の果実を生産する。農薬を使わず、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる「東京都GAP」の認証を受ける。

関塚代表はベリー栽培のトップランナーとして40年近く走り続ける。サザンハイブッシュなど一早く新品種に目を向け、栽培方法や栽培環境の向上に力を注ぐほか、ブルーベリーを使った料理にも力を入れ、メニュー開発や教室の講師を務めるなどしてきた。

傍らベリー栽培や観光農園運営のノウハウを、国内はもちろん韓国でも講演会を通じ伝える一方、視察は近隣から地方、中国など海外からも受け入れてきた。

関塚代表が切り盛りするカフェのメニューは甘い大粒のベリーがデコレーションにも中身にもゴロゴロ入ったショートケーキ（900円）＝写真。毎年、これを目当てに開店前に行列ができる人気ぶりだ。

濃厚な自家製ジュース、フルーツサンドイッチ、果肉25％のソフトクリーム、パフェなど果実の収穫と共にそろっていく。今年の生育は上々。甘い大粒の実が日差しに輝く。

営業時間は10時～17時。売り切れた場合は早めの閉店もある。月曜、火曜定休。摘み取りは予約制。ウエブでできる。入園料は大人500円、小人300円。量り売り100㌘ムグラ230円。問い合わせは0428（31）3810まで。

三田さん新曲「悠久の故郷」　ミュージックビデオで明星大生と共演

あきる野市の歌手、三田りょうさん（テイチク）の新曲「悠久の故郷」が6月19日、発売される。美しく愛すべき祖国、日本を称える詞と格調高い吹奏楽の演奏が心の琴線をふるわす一曲になった。

〈悠久の　日出づる国　風は渡り　花は咲き　夢の高みに　誘う小鳥　千の川　万の川　麗しき　わが島を　永久に包まん　生命のように・・・・

作詞は2013年発売の「風の旅人」、21年発売の「天山遥かに」を手掛けながら22年に他界した作詞家の坂口照幸さんが〝日出ずる国日本〟を題材に書き下ろし、作曲家の桜庭信幸さんが、奥行きが広がる曲を付けた。

日本を敬い、慈しみ、称える詞に壮大なメロディとアレンジが一体となった楽曲で、吹奏楽の響きと朗々と歌い上げる三田さんの歌唱が光る。

公開されたミュージックビデオ＝写真＝は明星学苑（府中市）で撮影され、明星大学吹奏楽部が出演。明星学苑総合音楽監督で、羽村一中吹奏楽部を10度、全国大会に導いた玉寄勝治さんが橋渡しした。学生たちの輝く表情が印象的。

三田さんは「金管・木管楽器を中心にしたアレンジで、吹奏楽の響きが心地良い楽曲になった。西多摩には素晴らしい吹奏楽団や吹奏楽部があるので共演できればうれしい」と話す。

「悠久の故郷」のほか、「気がつけばそこに友がいる」と「多摩の四季」を収録。「多摩の四季」は三田さんと親交があった青梅市の画家、宇佐美江中さんが詞をしたためた。